

栃木県 日中友好協会 会報誌

知己

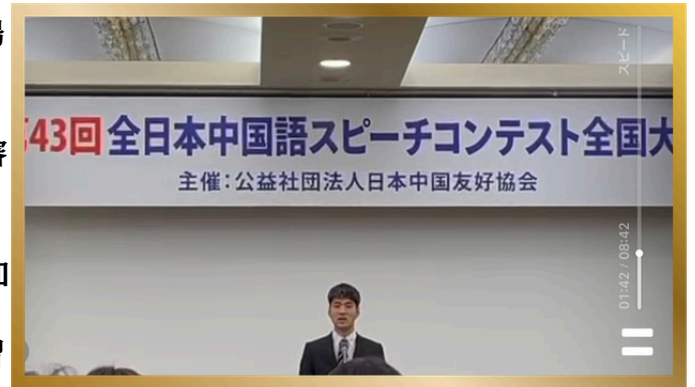
第7号

発行：栃木県日中友好協会青年部
河内郡上三川町大字
うきが丘12-6
0285-52-1588

第43回 全日本中国語スピーチコンテスト全国大会開催

各地から集まった出場者が日頃の学習成果を披露した。大会には、優れた語学力と表現力を備えた参加者が揃い、会場は終始高い熱気に包まれた。

その中で、辻航平さんが見事奨励賞を受賞した。辻さんは本番で持てる力を十分に発揮し、堂々としたスピーチを披露。審査員や来場者に強い印象を残した。辻さんは大会を振り返り、「他の参加者のスピーチはどれも素晴らしく、同じ中国語学習者として大きな刺激を受けた」と語った。また、多くの参加者や関係者との交流を通じて、学びだけでなく貴重な出会いを得られたことへの喜びも述べた。「これからも中国語の学習を続けながら、たくさんの人と交流していきたい」と意欲を示しており、更なる活躍が期待される。



『沈黙を破るまで～中華料理屋さんで取り戻した中国語の自信～』
辻 航平(栃木県)

《从沉默到开口：我在中国餐厅找回中文自信的故事》 辻 航平（栃木县）

我想讲我在日本和中国人用中文交流的经验。我家附近有一家中国餐厅，我和那里的老板经常用中文说话。通过和老板交谈，我的中文越来越好。

我学习中文四年了，基本上是自学。我从来没去过中国留学，一直学习但是几乎没用过中文交流。有一次，我偶然有一个机会在线上和中国人交流。不过，因为很紧张，我几乎说不出来说想做的事。我觉得自己的中文很差，失去了自信。从那以后我不想说中文。一个月后我在家附近偶然发现一家中国餐厅。我以为是普通的日式中华餐厅，进去才发现是中国人经营的正宗中国餐厅。我没想到附近有这种的餐厅，我很高兴。我吃了牛肉刀削面。吃完饭后我鼓起勇气对老板用日语说：“我正在学习中文。”因为我突然说话，她好像很惊讶，用中文问我：“你学习中文多久了？”“我这次用中文回答：“四年了。”“老板满脸笑容说：“你说得真好，下次来的话我教你中文。”她的表情让我特别开心。我曾经不想说中文，不过自己的想法变了，我想尝试说一点了。

后来我每周都去这家餐厅。老板跟我说中文，我也尽量用中文说。老板问我说：“吃饱了吗？”，我说：“嗯，吃饱了。”最初我们的对话是这样。我无法继续交谈。如果我回答“吃饱了”后接着说：“水饺特别好吃。”或者“今天的小菜是苦瓜吧。”，我想交流会更好。因为对发音没有自信，也不太会表达，所以我说不出这些话。老板每次都问我菜好不好吃，于是我决定准备试试说料理的哪里好吃。尝试这样的方法，我就发现交谈比以前容易继续，可以听更深的内容，比如食材和调料等。我慢慢地感觉即使我说的有偏差，对方也大概能理解，我也不需要担心。我的想法改变以后，就更有信心说中文了。即便是很简单的词语，我也想试试先说出来。

我不仅觉得和中国人会用中文交流了，而且自己学习中文更有用了。我每次去的时候，不但在想吃什么而且在想要说什么。第一天我和老板说的“我正在学习中文。”为我打开了通往另一个世界的大门。

私は日本で中国人と中国語で会話ができるようになった経験について話したいと思っています。私の自宅近くに中華料理屋さんがあり、その店長さんとよく中国語で会話しています。店長さんとの会話を通じて、私の中国語はますますよくなりました。

私は中国語を4年間、基本的に独学で勉強しています。これまで中国に留学したことがなく、ずっと勉強をしていても中国語で会話することは滅多にありませんでした。あるとき、オンライン上で中国人と交流する機会がありました。しかし、緊張していたため言いたいことをほとんど話すことができませんでした。私は自分の中国語が下手であると感じてしまい、自信を失いました。それからは中国語を話したくなくなってしまいました。一か月後、私は自宅近くで偶然一軒の中華料理屋さんを見つけました。私は普通の日本の中華料理屋さんだと思いましたが、入ってみると中国人が経営する本場の中華料理であることが分かりました。私は近所にこのようなお店があるとは思っても、嬉しくなりました。牛肉刀削面を食べました。食後に勇気を出して店長さんに日本語で「中国語を勉強中です。」と言いました。私が突然話しかけたため、彼女はとても驚いた様子で、中国語で「どのくらいの期間中国語を勉強していますか？」と尋ねてきました。今度は中国語で「4年間です。」と答えました。店長さんは満面の笑みを浮かべて、「とても上手に話せますね、次に来てくれたら中国語を教えてください。」と言いました。彼女の表情に私はとても嬉しくなりました。それまでは中国語を話したくありませんでしたが、自分の考えが変わり、少し話してみようと思うようになりました。

それ以降私は毎週このお店に行くようになりました。店長さんは私に中国語で話しかけてくれ、私もできるだけ中国語で返します。店長さんは私に「お腹いっぱいになりましたか？」と尋ね、私は「はい、いっぱいになりました。」と言います。最初の会話はこんな感じでした。そのあとの会話を続けることができませんでした。例えば、「お腹いっぱいになりました。」の後に、「水餃子が特に美味しかったです。」や「今日の副菜はゴーヤでしたね。」などと言えたら、会話をもっとよくなるのと思いました。発音に自信がなかったり、うまく表現できなかったりで、こういった返答ができませんでした。店長は決まって毎回、料理がおいしかったかどうかを聞いてくれます。なので、料理のどこがおいしかったのかを言うように準備しておくことにしました。このような方法を試してみると、以前より会話が続けやすくなったと感じて、食材や味付けなど、より深い内容の話が聞けるようになりました。多少の言い間違いがあっても相手はたいい理解してくれるし、気になくてよいのだと、だんだんとそう感じるようになりました。そう思うようになってからはより自信を持って中国語を喋れるようになりました。たとえ簡単な言葉であっても、まず口にしてみようと思うようになりました。

私は中国人と中国語で会話ができるようになったと感じただけでなく、自分の中国語の学習が役に立ったとさえ感じています。私は毎回行くときには、何を食べるかだけでなく何を話すか考えています。最初の日に店長さんに言った「中国語を勉強中です。」は、もう一つの世界に通じる扉を開いてくれました。

協会活動報告

第1回日本語歌謡コンテスト (2026/1/24)



大会に参加した文星芸術大学の楊蕊好さん「日本人の方が中国語の楽曲を丁寧に歌い上げておられる姿に強い感動を覚え、またマイクを使わずに、生の声だけで堂々と歌い上げる発声の美しさに、大きな衝撃を受けました。音楽を通して言語や文化の違いを越えた交流を実感できたことは、私にとって非常に印象深い経験となりました」



大会の優勝者、文星芸術大学2年デザイン専攻の岑怡慧さん「歌を愛する多くの参加者の皆さんと交流できたことを大変うれしく思います。このような素晴らしい機会の中で優勝することができ、大変光栄に思うとともに、皆さまの温かいご支援とご厚意に心より感謝しております」

春節を祝う会 (2026/2/14)



毎年恒例となった春節に餃子を包む会は、今年も和やかな雰囲気の中で開催されました。参加者たちは協力しながら餃子をつつひとつ丁寧に包み、中国の伝統文化に触れるひとときを楽しみました。



会場には笑顔と会話があふれ、出来上がった餃子を囲みながら、交流を深める貴重な時間となりました。

イベント当日の様子の詳細は栃木日中友好協会ホームページ『春節を祝う会』をご覧ください！



こちらは栃木日中友好協会新設サイトのQRコードです。「知己」に載せきれない詳細な情報はこちらからご覧ください。お問合せや掲載依頼も随時受け付けております！

白石会長、南米スリナムへ

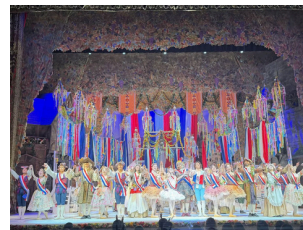
栃木日中友好協会の会長を務めるとともに、蝶の愛好家として長年研究を重ねてきた白石会長は、17世紀の女性博物学者マリア・シビラ・メーリアンの足跡をたどり、彼女が調査を行った南米スリナムを訪問しました。また『NHK WORLD NEWS』にて全世界配信インタビューにも答えておられます。白石会長は取材中こう語りました。



"I'm full of curiosity and I don't give up. When I decide to do something, I find a way. If you keep wishing for something long enough, it will happen — someday."

「私は好奇心にあふれていて、簡単にはあきらめません。やろうと決めたことは、必ず実現する方法を見つめます。強く願い続けていれば、いつかきっと叶うと信じています」

東京松山バレエ団が栃木にて演舞 (2026/3/22)



松山バレエ団により栃木県日中友好協会会員及び会員家族等66名がご招待を頂きました。県日中を代表して、瀧澤正幸理事長より松山バレエ団 森下洋子団長に感謝を込めて、公演祝いの花束を贈呈致しました。

あとがきを添えて

「人性之善也、猶水之就下也」水は低きに流れ、人もまた楽な方へと流されがちな存在です。しかし、強い志を持つ人々に囲まれることで、自分自身も奮い立たされることを改めて考えさせられました。環境は与えられるものではなく、自ら創り出していくものです。そして何より、強く願い続けることこそが、前に進む原動力になるのではないのでしょうか。今後もその思いを大切にしていきたいです。
(青年部：加藤かれん)

栃木県日中友好協会事務局 連絡先

FAX : 0285-52-1588

E-mail : tochiginichu.jimukyoku@gmail.com

浙江の知己より

浙江に住む人、学ぶ人、働く人。
我らが知己たちは中国で様々な活躍しています。
彼らの語る中国を聞いて、現地に想いを馳せましょう。

栃木日中友好交流員として過ごした日々

(文:津久井恭子)

浙江大学の留学生は世界各地から集まり国際色豊かな環境です。1(初級者)〜7(上級者)班までレベル分けされて各々のクラスに分かれます。事前のクラス分けテストで私は4班になりました。実際クラスに行き授業が始まってショックを受けました。20名程いるクラスメイトのほとんどが中国語のみで自然にコミュニケーションを取っています。私は教科書上は理解しているつもりでしたが、実際の会話は出来ないに等しく、一気に不安になりました。しかし!みんな中国語を学ぶという同じ目標に向かって努力する同志。私のつたない中国語でもみんなが一生懸命話しかけてくれて、私自身も気持ちを伝えようという想いが大きくなりました。開学式はそれぞれ自国の旗を振り、盛大に行われました。ここからの大学生活を有意義なものにして、帰国してからもこの世界のご縁を未来に繋げるよう努力しようと心から思えた素晴らしい一日になりました。

キャンパス内はとても広く、中心の通りには郵便局、コンビニ、タピオカ店、レストラン、カフェ、メガネ屋さんなど生活に必要なものはほとんど揃っています。学生食堂も何軒もあり、朝の7時から夜の7時までは100円(日本円で200円)程度でお腹いっぱい食べられます。



桂林は広西に位置する世界的な観光地です。カルスト地形でタワーカルストが林立する様子が街中から見る事ができ、世界遺産にも登録された中国南方カルストの一部となっています。カルストとは石灰岩などの水に溶解しやすい岩石で構成された大地が雨水、地表水、土壌水、地下水などによって侵食されてできた地形です。20元札の絵にも使われる水墨画の景色を目の当たりにし感動の連続でした。



大学からバスで20分ほど行くと杭州には龍井村(ロンジン村)という中国で「緑茶の女王」とも呼ばれる龍井茶の産地があります。中国緑茶の中でも高級茶として多くの人に選ばれているこのお茶は鮮やかな緑色、ふくよかな香り、爽やかな甘み、大きめな美しい形の茶葉が特徴です。満覚龍は独特の自然景観と文化的景観で多くの観光客を魅了しています。この場所は秋にはキンモクセイの香りでも有名で、それを鑑賞するのに良い場所です。開花期には、幸せな香りがあちこちに漂います。自然の美しさに加えて、満覚龍には歴史と文化の雰囲気も色濃く残っています。村内の古い建物や伝統的な家屋は、江南の水郷の独特の魅力を物語っています。



↑中国と言えばもちろんパンダ!
杭州動物園にて愛らしい姿で出迎えてくれた。



現在は日本に戻り、日々今後の仕事の方向性や、日本に旅行や仕事に来る中国の方々の為に自分には何が出来るかを模索しています。内側から見る中国も外から見る日本も全てが新しく、どちらの良さもしっかりと実感し、留学で世界中に友達を作り、もちろん語学の上達も手応えを感じ、この経験を通してとても大切なものを得られ自己成長に繋がったのはたくさんの皆さんのお陰と心から感謝しています。ありがとうございました。





津久井恭子さん

こんにちは、2025年9月から栃木県の国際交流員として浙江大学に留学しました津久井恭子と申します。浙江大学はいくつものキャンパスがあり、その中でも西湖に面するく玉泉校区>留学生棟に通学しました。

本当にあっという間に過ぎてしまった5ヶ月間。当初の目標の通り一日も無駄にせず学び、交流し、努力できた素晴らしい体験になりました。これからも栃木県と浙江省の架け橋として皆さんの為になるような活動が出来たら幸いです。



チンメイさん

大家好！皆さんこんにちは。チンメイ（日本人）と申します。現在、中国東北地方のハルビンで夫と共に留学生活を送っています。大学生活も良い先生方に恵まれ、とても充実しています。ハルビンは東京から飛行機で3時間半ほどで行けますし、夏も冬もとてもお勧めです。

そしてハルビンで出会う方は老若男女問わずとても優しく親切です。ここでの生活も早いもので7ヶ月が経ちました。私はハルビン以外をよく知らないで比べられないのですが、ハルビンに留学に来てよかったと思っています。今回、「これは特にハルビンならではの？」と思うことについていくつか紹介します。

異国情緒溢れる街、ハルビンの生活

(文:チンメイ)

ハルビンはロシアに近いこともあり、異国情緒に溢れた独特の街並みが美しい場所です。ハルビンに来る前は、ハルビン紹介の定番フレーズ「東方のモスクワ」「東方の小パリ」と聞いてもあまりピンと来なかった私ですが、まさに『百聞不如一见』でした。ちなみにハルビンにはロシア料理店も多いのですが、日本人の口に合う味でとても美味しいです。



氷でできた温度計



中央大街



松花江(大きな川)も凍る

中心部から少し離れたと、地元の人の生活風景が広がっています。ハルビンでは日本人のイメージするコンビニ（便利店）がありません。昔ながらの個人商店があり、しかもそれが「便利店」ではなく「仓买」という名前が存在しています（これはハルビン等で使われている方言みたいなものらしいです）
浙江省や北京で日本同様のコンビニを利用したことがあった私はハルビンに来て戸惑いました。仓买がコンビニだとわかってからも、店によって品揃えもばらばらですし、留学初期に「何か探しているの？」と聞かれても言葉が出てこなくて慌てたり。でも、日本の駄菓子屋さんみたいな昔ながらの雰囲気やちょっとした買い物ができて楽しいです。



→秋から春まで、建物の出入口には分厚いカーテンが出現



12~2月の期間は寒かったというより、顔に当たる空気が痛かったです。ただし、しっかり防寒すれば意外と普通に生きていけることがわかりました。マイナス20~25度での毎朝の通学（宿舎から校舎までの徒歩10分）は、ひと冬を乗り越えた今となっては楽しい思い出です。



冬のハルビンは、外でアイスや冷凍食品を売っているのが面白かったです。凍った果物（凍梨など）も売っていました。街中のショッピングモールの周りでも立派な氷像が見られ、寒い中たくさん写真を撮りました。
また、世界的に有名な氷祭り「冰雪大世界」はさすが中国！というスケールで、夜のライトアップでは色も次々変わって見応え抜群です。写真で見ると「冰雪大世界」はもちろん綺麗なのですが、極寒の中、完全防寒装備かつ氷上を転ばないように歩きながら見てこそ味わえる楽しさがあります。（ちなみに暖を取れる場所もちゃんとあるので、過度に寒さを心配なくても大丈夫です）

ハルビンに住むにあたり、一番心配していたのは真冬の寒さでした。ハルビンの緯度は北海道のつべんと同じくらいなので、夏に日本からハルビンに来たときは涼しさを期待していました。にも関わらず、昼間は日本の夏に負けなくらい普通に暑かったです。（夜はとても涼しくて快適でした）
ただ、新生活を慌ただしく過ごしているうちに日に日に涼しくなり、街のスズメや猫を見るたびに丸くなっていくのを見て笑っていました。10月頃には虫の音が聞こえて秋らしさを感じたものの、それもわずかに一週間ほどで終わり、気づくと無音、完全に冬の到来でした。気温変化が早すぎて、木々には緑の葉が残っているのにもう雪が降っていたことが印象的です。